


わたし達の町の —— 医療をサポート **病院だより**

ガイアの季節

第10号

医療法人 伴帥会  愛野記念病院
〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲3838-1
TEL(0957)36-0015 FAX(0957)36-1027
ホームページ <http://www.ainomhp.jp/>

手の外科センターが開設

2ページ

第13回ガイアの里秋祭り

2ページ

緩和ケア認定看護師

森本幸代さん
県看護学会で受賞

4ページ

愛のウォーキング

講話、昼食、ウォーキングを実施しました!!

5ページ

編集後記

6ページ

- ・介護老人保健施設「ガイアの里」
- ・愛野記念病院ケアマネジメントセンター
- ・愛の訪問看護ステーション
- ・グループホーム「椿高野」
- ・愛野健康センター

ガイアの里“秋祭り”が盛大に行われました!



基本理念

- 一. 私たちは患者様、利用者様の立場にたち、納得していただける良質な医療・介護サービスを提供します。
- 一. 私たちは保健・医療・福祉を通じて地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援します。

平成25年7月1日より、

手の外科センターを 開設しました。



手の外傷、疾患治療、リハビリを 専門的に行い、治療成績を 向上させることを目指します！

手外科とは手指、手関節、前腕、肘関節などの外傷、障害に対し、専門的な治療を行う分野です。外傷による骨折、腱断裂、神経断裂、靭帯損傷、指切断に対する再接着、また神経麻痺や変形性関節症、関節リウマチによる関節変形など、上肢機能障害に対し幅広く対応します。

神経や血管の損傷を修復するには顕微鏡によるマイクロサージャリーの技術を要します。また手指の機能は非常に複雑で、微細な構造をしているため、特に腱断裂の治療では専門医による手術と、手のリハビリの専門家であるハンドセラピストによるリハビリを行うことが大切です。

こうした手の外傷、疾患に対する治療は、当院の貝田英二理事長が長年専門的に取り組んできた分野です

が、手外科専門医とハンドセラピストがチームとしてスムーズに対応し、より治療成績を向上させることを目的として、手外科センターを開設しました。

日本手外科学会専門医である整形外科 宮崎がセンター長を務めます。

所属医師である形成外科 山中とともに治療にあたり、リハビリは日本ハンドセラピー学会認定ハンドセラピストである副センター長 田崎、野中をはじめ専門の作業療法士6名が担当します。

手の治療は手術だけでなく、適切なリハビリを行うことで良い結果が得られます。

手や腕の外傷のみならず、手のしびれ、痛み、動きの悪さなどでお困りの際には、外来にご相談ください。





▲入所者のみなさんが元気いっぱい歌声を響かせました!
 ◀挨拶をする貝田理事長

秋晴れの青空に響く歌声と笑顔!!

毎年恒例となっているガイアの里秋祭りが、秋晴れの素晴らしい青空のもと本年9月28日土曜日、盛大に開催されました。

ガイアの里若手職員によるソーラン節によるオープニングで一気に祭りは盛り上がり、貝田英二理事長による挨拶ののち、プログラムがスタートしました。

地元愛野町の小さき花の幼稚園園児たちによる可愛らしいマーチング演奏で和やかな雰囲気となり、今回初めての試みとなったカラオケ大会は、入所者の皆さん、デイケア利用者の皆さんの元気のよい歌声が会場一杯に響き渡りました。

ラムネ早飲み大会、男性職員によるコッコデショ、琉球太鼓も順調に進行し、大抽選会では豪華(?)な商品に会場されたお客様も大変喜んでいらっしゃいました。

今年の秋祭りは、東日本大震災支援も兼ね、会場内に募金箱を設置。復興を願い、全員で「花は咲く」を合唱しま

した。なお、集まった募金については、日本赤十字社長崎支部を通じ寄付を致しました。

当日は、関係業者の方々のボランティア、愛野記念病院リハビリ部、看護部、デイケアから多数の職員のご協力を頂き、地域からは自治会、老人会の皆様も多数来場されました。

このガイアの里秋祭りが、地域と病院、施設を繋ぐひとつのモデルケースとして、今後も進化していくよう、職員一同努力していきたいと思えます。

なお、秋祭りの模様は、「ひまわりてれび」で数回にわたり放映されました。



▲男性職員によるコッコデショ

第13回

ガイアの里秋祭り 盛大に開催!!

介護老人保健施設ガイアの里
事務次長 池永孝幸

長崎県看護学会において 学会委員推奨抄録 優秀賞を受賞

**終末期の患者さまと家族への
ケアと看護師の役割をテーマに症例を発表。
日々のケアに対する姿勢への評価に感謝！**



緩和ケアチーム「すずらん」は平成19年に発足されました。チームは医師(チーフの外科深堀医師と非常勤心療内科医師)、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリテーションセラピスト、医療ソーシャルワーカー、訪問看護師等々、多職種で構成されています。協働でカンファレンスや回診を行い患者様や家族のQOLの維持向上を目指し、人生の最後の瞬間までその人らしく生きるためのケア、支援を行っています。

私は平成24年に【緩和ケア認定看護師】の資格を取得し、すずらんチームのサブチーフの立場で患者様、家族の方々へ直接的支援と共に、他職種間の調整を行っております。平成25年8月25日に開催された長崎県看護学会において、『終末期「眠りたい」と願う患者と、「会話したい」と願う患者家族のケア』の演題で症例発表をしました。そしてこの論文が長崎県学会委員奨励抄録優秀賞に選ばれました。すずらんチームとして取り組んでいる日々のケアが評価されたものと思います。これからもこの賞を励みに、患者様家族に寄り添い愛に満ちたケアを提供していきたいと思っております。

今回の論文作成にあたり指導を受けた看護部長をはじめ、教育担当松尾有紀師長、他の師長達からは、発表に至るまで数多くのアドバイスを頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。

終末期「眠りたい」と願う患者と「会話したい」と願う家族へのケア ～緩和ケア病床上における看護師の役割～

○森本幸代、野口奈緒美、荒木ゆかり、菅美由紀
医療法人仲助会 愛野記念病院

キーワード：平和な死、緩和ケア、家族ケア

積極的にコミュニケーションを図り傾聴し家族を労い支持した。多職種によるカンファレンスを重ねA氏の最善のケアについて家族と共に検討したことで、不安の訴えが軽減し鎮静や病状に対する受け入れもできた。また患者・家族、スタッフ間の情報を共有するツールに、A氏自身が活用していたノートを使用した。その中で「部屋から出たい」というA氏の思いを知り、希望をかえらるる為全員で病院の中庭への散歩を計画し実施することができた。4日後にたたくさんの家族に見守られA氏は静かに永眠された。

IV. 考察

ヴァージニア・ヘンダーソンは看護とは「病人であれ、健康人であれ各人が、健康あるいは健康の回復(あるいは平和な死)に資するような行動をするのを援助すること」¹⁾と述べている。これは「平和な死」を健康の回復と同列に位置づけ、そこにも看護の重要な働き(手助け)があるとしている。看護師には「死」を自然な経過と受け止め、苦痛なく穏やかに迎えられる支援が望まれる。また、「看護師が考えている意味ではなく、看護を受けるものが感じている意味に従って」²⁾とも強調している。看護を受ける者(患者・家族)がどの様に思い何を希望しているのか汲み取り、その最善策について一緒に考えることが重要である。今回の症例では、当初受け持ち看護師はケアに困難を感じていたが、チームで話し合うことで、「平和な死」を前提に、看護を受ける対象の立場に立った看護問題とケア目標を見出すことが出来た。そして、家族も含めた多職種協働でケアを実践する中で、患者・家族と医療従事者の間に信頼関係が構築できた。ノートの最後には、家族からA氏に対する感謝の言葉がたくさん綴られ、経過を自然に受け止め看取られた思いが伺えた。

V. まとめ

看護師はその役割として様々な患者・家族の「生」「死」に向き合っていくものである。今後も「平和な死」についての理解を深め、患者の思いに寄り添い対象者の人生の最後の瞬間までその方らしく生きるために、看護師として手を差し伸べていきたい。

引用・参考文献

- 1) 2) ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、P15、2005。
- 恒穂純、内布敬子：緩和ケア、医学書院、P214-264、2012。
- 高田早苗：看護理論、MCメディカ出版、P101-105、2000

I. はじめに

A病院は、病床数234床を有する一般病院で救急指定病院である。一般病棟A病棟58床には緩和ケア病床として常時10床(17%)ほどの患者が占めている。当該患者に対しては4年前より多職種協働による緩和ケアチームを中心に緩和医療にかかわっている。

緩和ケアの基本理念はQOLの維持・向上である。臨床では病状が進行し苦痛が増強していく患者や、不安と緊張の家族を前に、私たち看護師も何を目標としてケアを提供すればよいか立ちまわす中で、場面も少なくない。

今回痛くて「死にたい」「眠りたい」と願う患者と、「鎮静剤で会話出来なくなることがつらい」「しかし楽にしてあげたい」と願う家族との関わりを通し、看護師としての役割について振り返りを行なった。

倫理的配慮：研究の主旨を説明し匿名性、自己決定性を保障し同意を得てA病院倫理委員会の承認を得た。

II. 事例紹介

A氏70歳代女性、20年前下顎歯肉癌の診断を受け手術。今回再発し頸部リンパ節転移、緩和ケア目的にて紹介となる。子供は3名、長男家族6名と同居期間：平成24年8月10日～11月22日

III. 看護の展開

病状の進行と共に右頬から頭部にかけての痛みが増強し食事摂取困難となった。スピリチュアルベインも出現し、「痛くてつらい、死なせて、もう(家族に)話すことはない、ずっと眠らせて欲しい」との訴えが多くなった。家族は「(鎮静で)話せなくなる事はつらい、本人の言葉もつらい、楽にしてあげたいがどうしていいかわからない」と不安と戸惑いの訴えがみられた。A氏と家族の思いに違いがあり、看護師もケアの方向性が見だせずいた。毎週緩和ケアチームを中心に、カンファレンスを実施、A氏の身体的、精神的スピリチュアルな苦痛と、家族の精神的苦痛に対しケアを行うよう話し合った。A氏の身体的苦痛に対して、正しく疼痛評価を行い医師と連携、オピオイドローテーションと適宜レスキューを使用し疼痛の軽減が得られた。スピリチュアルな苦痛に対して、家族、コメディカルと協働し病室への訪室を増やし、寄り添うように心掛けた。疼痛が軽減したことに加え、傾聴し思いを聞くことで、A氏のスピリチュアルな訴えが減少し笑顔や会話が多くなった。家族の精神的不安に対して

毎年恒例

「秋を探ろう 愛のウォーキング」を開催しました

大塚先生による講話に興味津々!!

さる平成25年11月2日土曜日に毎年恒例となりました、「秋を探ろう 愛のウォーキング」が開催されました。天気予報では雨になると言われていましたが何とか持ちこたえて曇りでした。毎年この時期は天候がよく汗ばむくらいの暑さでしたが、今年は運動しやすい気温でした。

スタートは愛野記念病院内科大塚先生による「ロコモティブシンドローム」についての講話です。最近では健康番組などでも取り上げられる注目の内容を分かりやすく、運動も取り入れて発表されました。参加者の皆さんは興味津々で講話を聞かれ、運動も呼吸に合わせて実施していました。



お待ちかねの昼食にもひと工夫!

そていよいよ、お待ちかねの昼食です。今回は栄養科からバイキングが提供されました。食べたいものを好きなだけ食べるのではなく、ご飯・主菜・副菜・果物・汁物をバランスよくとれるように工夫されていました。

主菜はパン粉焼き、鮭あかけ、ハンバーグ、カレーの中から1つ選び、副菜は1、2、3、4から2つ選びます。皆さん自分好みの品を嬉しそうに選ばれていました。

食事中は参加者どうしはもちろんですが、理事長も参加して話がはずんでいました。またスタッフとの交流も深まり、運動、栄養など普段悩んでいることなどを話されていました。

バランスを考えたバイキング昼食



ウォーキングで一汗!

食後はいよいよ、ウォーキングです。開始する前に血糖値、血圧測定を実施して、万歩計をセットしました。そして準備運動を行い出発です。2.5キロコースと4キロコース、そして今年からは室内運動の3つに分かれて実施しました。足の痛みがありウォーキングができない参加者には室内運動を設けました。

多くの方は4キロコースに参加され、それぞれのペースで歩いてもらいます。普段歩くことを習慣化できている方も多く、皆さん気持ちよさそうに風を切って歩かれていました。今後もウォーキングが習慣化できるようになればと思います。ウォーキングから戻ってきてから再度血糖値測定を実施。食後に運動することでより血糖値が下がり、皆さん喜んでまた万歩計を確認し合っている姿が印象的でした。

選べる3つのウォーキングコース



糖尿病クイズ



糖尿病に関する〇×クイズ!!

体を動かした後は、糖尿病に関する〇×クイズです。前半は糖尿病の運動に関する知識問題。どのような運動をどの位すれば良いか、皆さん普段行う運動により効果を出すために熱心に考えてクイズに答えていました。後半は糖尿病に関する雑学問題です。歴史上の人物が糖尿病だったか、糖尿病の研究はどのように行われていたのか、など面白い内容で皆さん楽しみながらクイズに答えていました。

ひとことメッセージ

一日盛りだくさんの内容でしたが、無事に今年も「秋を探ろう 愛のウォーキング」を実施することができました。来年も今年の経験を活かして、このイベントをスタッフ一同盛り上げていきたいと思っております。ご参加ありがとうございました。


診療科目一覧

当院は、予約制となっております。予約時間までに病院にお越しください。

診療科			月	火	水	木	金	土	
整形外科		午前	貝田 英二 手外科・神経	貝田 英二 手外科・神経	貝田 英二 手外科・神経	貝田 英二 手外科・神経	貝田 英二 手外科・神経	宮崎 洋一 手外科・関節・ リウマチ	
			鳥越 雄史 股・膝関節・ リウマチ	宮崎 洋一 手外科・関節・ リウマチ	宮崎 洋一 手外科・関節・ リウマチ	鳥越 雄史 股・膝関節・ リウマチ	鳥越 雄史 股・膝関節・ リウマチ	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形	
			坂上 秀和 肩関節・整形一般	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形	坂上 秀和 肩関節・整形一般	坂上 秀和 肩関節・整形一般	大学医師	
		午後		坂上 秀和 肩関節・整形一般	泉 賢太郎 整形一般				
			宮崎 洋一 手外科・関節・ リウマチ	坂上 秀和 肩関節・整形一般	河合 尚志 整形一般・リハビリ	鳥越 雄史 股・膝関節・ リウマチ	河合 尚志 整形一般・リハビリ		
				富田 伸次郎 脊椎	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形	富田 伸次郎 脊椎	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形		
			泉 賢太郎 整形一般						
形成外科		午前	山中 健生		山中 健生	山中 健生	山中 健生		
内科	一般内科	午前	星野 晶子	星野 晶子	田中 實		白井 和之	白井 和之	
		午後	古賀 宏延	曾野 弘士	大学医師	田端 千幸	白井 和之	白井 和之	
	呼吸器	午前	古賀 宏延	古賀 宏延	古賀 宏延	古賀 宏延	古賀 宏延	古賀 宏延	
		午後	随時診療	随時診療	出川 聡	山下 広志(月2回)	随時診療		
	循環器	午前	古瀬 範之	古瀬 範之	古瀬 範之	泉田 誠也	古瀬 範之		
		午後	随時診療	随時診療	随時診療	古瀬 範之	随時診療		
	消化器 糖尿病	午前	大塚 英司	大塚 英司	大塚 英司	田中 實	大塚 英司	大塚 英司	
		午後	随時診療	随時診療	田中 實	田中 實	田中 實		
	心療内科	午前		梅山 未来					
		午後			波江野 誠				
神経内科	午前								
	午後	森 正孝 (月2回)							
外科	午前	深堀 知宏	古賀 浩孝 平野 憲二	前田 滋	古賀 浩孝 平野 憲二	深堀 知宏	平野 憲二		
	午後	緩和ケア外来 深堀		NST外来 前田・曾野 痔専門外来 深堀		緩和ケア外来 深堀			
耳鼻 いんこう科	午前	藤原 久郎	藤原 久郎		藤原 久郎	藤原 久郎	大学医師		
	午後	藤原 久郎	藤原 久郎		藤原 久郎	藤原 久郎			

診療時間：(月～金)午前9時～午後5時／(土曜)午前9時～午後0時30分

休 診：(日曜・祝日 第2土曜日)※救急の場合は時間外・休診日でも随時受け付けます。玄関は、午前7時30分に開けます。



今年ももう12月になり、あっという間に一年が過ぎようとしています。

年初にたてた自分の目標が達成できたか考えてみると、まだまだ成し遂げていないことがあり、自分の力の無さを痛感します。

みなさまにおいては如何でしたか?充実した一年になりましたか?

本広報誌については今までよりも編集部の人数を増やして、さらにいろいろな情報を届けていこうと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひします。